

## 令和5年度 第3回野洲市社会教育委員会議

日付	令和5年10月24日（火）
時間	13時15分～15時15分
場所	野洲市役所 庁議室
参加者	<p>【出席】高木和久、駒井 朔男、中出 雅仁、光永 智、福森 恵子、鷺田 新介、小澤 郁乃（委員7名）</p> <p>西村教育長、馬野教育部長、北脇教育次長</p> <p>生涯学習課：井狩課長、菱沼参事、岡山技師、田中主事（事務局7名）</p> <p>【欠席】木村 恵理、西川 典子（委員2名）</p>

概要	
<p><b>【1.開会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本会議は議事録及びホームページ掲載のため録音・写真撮影されており、公開とする。</li> </ul> <p><b>【2.あいさつ】</b></p> <p><b>〔教育長〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校は親の責任だという発言が反響を呼んでいて残念である。フリースクール等のサポート体制が全国的に弱い中で、子どもたちをどう育てていくのか、生涯学習の中で考えていきたいと思う。</li> </ul> <p><b>【3.議事】</b></p> <p>(1) 野洲市生涯学習振興計画（第3期）について</p> <p><b>〔高木委員長〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間学校やフリースクールなど、人権を侵害する発言が慌ただしく出ている。子どもよりも大人が、アンコンシャス・バイアスにより人権侵害をしていることがある。地域社会の中で、古い格式に従っていると男女共同参画ができていなかったりすることがある。人の生きる土台は人権であるが、現在の計画はその点が手薄ではないかと感じる。子どものことに関しては、もう少しこだわったものを作っていかなければならない。もう少し課題の修正等が必要である。</li> </ul> <p><b>〔井狩生涯学習課長より「第3期野洲市生涯学習振興計画（素案）」について説明〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回野洲市社会教育委員会議では、「第4章 計画の基本方針」について、方針ごとの中身を見ていただいた。今回はその際いただいた意見と、庁内の各担当課から出た意見を反映している。今回ご意見いただいた内容も、次回修正していきたいと思う。</li> <li>・表紙に、野洲市の風景である三上山、子どもたちの行事の様子、篠原焼等の写真を使用した。ご意見があればおっしゃっていただきたい。</li> <li>・「第3期野洲市生涯学習振興計画（素案）」に沿い、前回からの変更点を中心に説明。</li> </ul>	

〔高木委員長〕

- ・今日までの取り組みについて、先へとつながることに視点を向けたものが少ない。コロナ禍で何が起こったために何ができなかったのかが書かれておらず、この先どう広げていくのかを考えなければいけない。

(2) 意見交換

〔井狩課長〕

- ・本日欠席の西川委員より事前にいただいた意見を代読する。
  - ・29頁「①学習情報・機会の充実」について、市民の皆さんが学ぶ研修講座があったらどうか。
  - ・37頁「②青少年育成市民会議の運営」について、中学生サミットで、生徒代表が意見交換できる場を作ったらどうか。

〔光永委員〕

- ・14頁について、学力・学習状況調査は令和5年のものが出ていると思う。質問の内容や数字が変わっているため、新しいものにした方が良いのではないか。
- ・16頁からの生涯学習関連事業について、教育委員会内で行っている取り組みがほとんどであると思うが、他のところでも生涯学習に関連する事業を行っている。そのような部分には手を広げずに、市の各課の取り組みを挙げているという認識で良いか。

→〔井狩課長〕

- ・他のところでも生涯学習に関連する事業を多く行っているが、教育委員会を主として進めていくべき取り組みを挙げている。ただ、他のものを疎外しているわけではなく、連携していきたいと考えている。
- ・41頁「高校魅力化プロジェクト」について、高校は県のものであるが、市の計画とどう関係があるのか違和感がある。
- ・3頁「1 生涯学習を取巻く背景」について、どうして「学校教育の背景」が入っているのか、もう少し皆さんに理解いただいた方が良いと思う。

→〔高木委員長〕

- ・生涯学習と社会教育の違いを理解していただくために「生涯学習とは」という項目を入れても良いかもしれない。学校教育についての項目を入れすぎると教育振興計画のようになってしまうため注意が必要である。

→〔井狩課長〕

- ・生涯学習の概念を入れる方向でいきたいと思う。

#### 〔福森委員〕

- ・ さざなみホールや小劇場の解体の話があるが、市民が教室や発表を行う場を今後も確保していく必要がある。大きな場だけでなく、小さな団体でも発表の機会を確保し、計画を有効に実現できるようにしたい。

#### → 〔西村教育長〕

- ・ 市としてもホールの役割をもつものは必要であるという方向であり、発表の場についての論議はされると考えている。また、ホールについては計画の中で検討されるものであると思う。

#### → 〔高木委員長〕

- ・ 大きな組織は維持ができるとしても、小さな団体もたくさんある。補助金もなく活動している小団体をどのように活かしていくか考えなければならない。
- ・ 事業についても、PDCA サイクルがない、やって終わりのものが多い。住民リサーチや、タブレットを持っている子どもたちに意見を聞くのも手であると思う。

#### → 〔井狩課長〕

- ・ 各課の取り組みについて。成果をもう一度確認するようにする。

#### 〔小澤委員〕

- ・ 30 頁「④歴史文化の適切な継承とまちづくりの活用」について、文化財保護課はたくさんの知識をもつ人や、歴史について得意な人がいる。もっと市民や子どもたちにつなげる活動のしかたができると感じた。
- ・ 37 頁「②青少年育成市民会議の運営」について、サミットや育成フォーラムなど、子どもたちが主体的に色々なディスカッションをしている様子を大人が見る機会があればと思う。

#### → 〔高木委員長〕

- ・ 子どもが自分でできることがあると気づいていることは大事な視点である。地域で子どものもつ力が余り活用されていないと感じる。
- ・ 39 頁のボランティア連絡協議会について、ボランティア連絡協議会ではなく、現在でも様々な人がかかわっている社会福祉協議会ではいけないだろうか。もっと連携して市民が主体的に動くことができるきっかけがあればと思う。

#### 〔中出委員〕

- ・ この計画は誰が読むことを想定しているのか。一般の方が読んで分かるものなのだろうかという疑問がある。基本理念を掲げるのであれば、もう少し分かりやすくしても良いのではないかと感じた。
- ・ 人口等のデータについて、2060 年という年を選んだ理由は何かあるのか。

#### → 〔井狩課長〕

- ・ 基礎データを引用したものであるため、今示しているものから年数等を変更することなどは出来ない。また、市民の方が見てすぐに理解することは難しいものであることは否めない。難しい言葉を最終ページで説明することであれば可能である。

**〔鷺田委員〕**

- ・細部の文言等を指摘・整理

**〔駒井委員〕**

- ・39頁「②学んだことを活かす仕組みの構築」のうち「大学等と連携」とあるが、「大学生」にした方が、野洲に帰ってきて参画できるような書き方になる。

→ **〔井狩課長〕**

- ・市との連携協定を結んでいる大学があり「大学等と連携」と書いた。大学生との連携も考えていきたい。
- ・子どもの居場所づくりについて、土日の居場所づくりの場として望ましいのはコミュニティセンターであるが、図書館や博物館と違って専門員がおらず、子どもとのコミュニケーションに慣れていないこともある。地域でコミュニティセンターのような施設をしっかりと活用していく方が良いと思う。また、有償ボランティア等も考えていかなければならない。

→ **〔高木委員長〕**

- ・色々な組織がかかわり、まちぐるみでしていかなければならない。有償ボランティアという方法もあると思う。

**〔高木委員長〕**

- ・計画で挙がっている内容はあくまで手段である。それでどう人間が育っていくかが問題である。テーマコミュニティは取り組みの中でどうつながりをつくるかが問題である。子どもとのコミュニケーションを取る難しさもある。また、地域の中には周りとは違う視点をもっている人もいるが、そうした多様性を感じられるようになったら良いと思う。子どもがどう育つと良いかにこだわっていきたい。また、ふるさとづくりはものではなく人である。PDCAのアクションをどうするか、明確化していきたい。

**〔事務局〕**

- ・次回は今回の意見を反映させ、パブリックコメントに向けて準備していく予定である。

**【その他】**

- ・次回日程調整について

**【閉会】**